

峰のひかり

発行人

社会福祉法人 七峰会

理事長 奥田 稔

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町 21-8

電話 (0172)33-8861

FAX (0172)33-8862



社会福祉法人

七峰会

理事長

奥田

稔

“地域と共に”に込める

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、新型インフルエンザ禍の中にもかかわらず、お元気で新しい年を迎えられたことと存じ、心からお喜び申し上げます。

さて、今年は今世紀に入つてすでに10年一区切りとなり、時の経過は誠に早いと感じます。

社会福祉法人七峰会は、1972年に設立の申請を県を経由して国に提出しました。そして73年(昭和48年)11月16日付けをもって当時の斉藤那吉厚生大臣の名で法人設立の認可を受け社会福祉事業を進める事となりました。この事業の第一号が拓光園で、その後には拓心館・山郷館・旭光園・サンアップルホームと続きました。そして、それぞれの施設は地域の皆さんに支えられ、早い施設では30年余を経過して今日を迎えています。20世紀の障がい者施設の活動は、コロナを含め大型施設を指向した時代でもあったし、施設活動を軌道に乗せるために、また大事な時期でした。おおむね、

成功したと判断します。その中で社会福祉法人七峰会も活動を展開して今日を迎えたのです。

今、21世紀という新しい時代に生きて、新しい時代の課題に向かつて社会福祉は活動しています。その課題は、私達創設の時から課題とされてきた「地域と共に」という命題であります。前世紀の社会福祉活動を進めるに当たつての「地域」の捉え方は、その活動体である施設(利用者の生活を含んで)が地域を新しく設ける小さな社会を形成するという考

えで活動しました。そのため在来の地域と施設集団の生活圏に高い塀が巡らされていたとする傾向があったのです。しかし、平成19年11月25日障害者施策推進本部決定により、重点施策実施5ヵ年計画の標題に「障害の有無にかかわらず国民誰もが支え合い共に生きる社会への更なる取組」と表現されたように、今世紀の「地域」は、在来の地域の中に入り込むⅡ事で特別なエリアを設けるのではないのです。

此の様な種々の福祉施策を利用した当

事者が文字通り主体者として選択し決定して自分の生活を主体的に打ちたてる事の出来る時代へ移行している事を実感します。この歩みが1981年国際障害者年以來まもなく30年目を迎える日が来るでしょう。

国際連合は「障害者の権利条約」を発効させました。世界の動向は、此の権利条約の描いた「障害のあるなしに関わらず全ての人々」を考慮の中におき、私達が実体験した「障がいのある人に有効な施策は全ての人に有益だ」と一層理解を深めて、此の21世紀に第二段階を完成させたいものです。

地域と共にということとは、特定の人々を色分けするのではなくて、全ての人々と共に生活を営むということです。

七峰会は、此のために、この先の歩みが続け、地域の人々のお力を借りながら、よりよい街づくり(地域づくり)に励みたいと考えて新年を迎えました。

本年も宜しくお願い申し上げます。

サンアップルホーム

おむつ使用率

0%達成

4面をどうぞ

知的障害者通動寮 拓心館
行ってきました
一泊旅行!

拓心館グループ『エイブル』は、就労継続支援B型と生活介護のサービスを提供しております。昨年の10月29日〜30日には、日頃の慰労の意味を込め、岩手県一関方面へ一泊旅行に出かけました。

旅行は「観て・聴いて・触れて」をテーマに組み立て、実施しました。一日目には「中尊寺拝観」と「狛鼻溪での舟下り」を行いました。二日目には「岩手サファパーク見学」と「厳美溪の散策」を行いました。行く先々で楽しそうな歓声が上がっておりましたが、その中でも一番の盛り上がりを見せたのは、旅館での大宴会でした。

宴会の席には刺身や鍋等の豪華な料理が用意され、美味しいお酒と共に舌鼓を打ちました。また、ステージにはカラオケも用意され、十八番の演歌を披露したり、流行の曲で踊ったりと、エンターテイメントに富んだ宴会になりました。どの席にも、こぼれんばかりの笑顔と大きな笑い声が溢れており、参加者全員が大いに楽しめました。また、普段無口な利用者の方がカラオケを

熱唱して皆を驚かせる場面もありました。このように、利用者の方の新たな一面を発見することが出来るのも、旅行ならではの魅力です。

二日間の楽しい時間は、あつという間に過ぎ、利用者の方々からは「リフレッシュ出来た」「来年はどこに行くの?」との声が聴かれ、早くも来年の旅行を楽しみにしている様です。

初めての土地に行き、様々な経験を得ることは、一人ひとりのより豊かな人生へと繋がると思います。今年も『エイブル』らしい旅行を企画し、笑顔いっぱい思い出を作りたいたいと思います。



山郷館との交流会

山郷館くろいしが山郷館と分かれてから3回目の秋をむかえた昨年10月18日、両施設間の交流会が行われました。

毎年恒例となつていている交流会を利用者のみなさんはとても楽しみにしており、今回はくろいしから山郷館へ利用者の方々とご家族のみなさんとで訪れました。

初めて山郷館を訪れる方や懐かしそうにしている方などそれぞれ反応は違いましたが、みなさん共通してとてもいい笑顔をしていました。そして、懐かしい場所で懐かしい人たちと一緒に食べたお昼のお弁当はより一層おいしく感じたそうです。

午後には、樋の口にあるショッピングセンターロックタウンでショッピングを楽しみました。

みなさんここではご家族との時間を楽しまれ、買い物をしたり軽食をとったり思い思いに過ごしていました。

「楽しい時間はあつという間だね」と、帰ってきてから利用者のひとりと言っていました。その言葉を聞き、心から楽しい時間を過ごして

きたのだと感じこちらまで嬉しくなりました。

これからも両施設間の交流会を続けていきたいと思えます。そして、回を増すごとに、利用者

者のみなさんがよい思い出を積み上げていけるような交流会にしていきたいと思



働く喜び

旭光園

昨年11月20日に勤労感謝昼食会を開きました。この行事は、毎年、勤労感謝の日に合わせて行なっています。毎日、授産作業に取り組んでいる利用者や職員みんなで、健康で働く喜びに感謝しながら、日ごろの労をねぎらいました。

昼食会の目玉は、「出張握り寿司」です。旭光園の食堂にお寿司屋さんのカウンターが出来上がり、目

の前で職人さんがお寿司を握っていきま
す。次々と出
来上がるお寿
司を前に、み
なさんの顔に
も満面の笑み
が見られまし
た。ウニ・数
の子・マグロ
など、どれも
美味しくてた
だきました。
ある方は「旨
かった。毎年
楽しみで、や
る気が出る
ネ。」と話し
てくれました。
授産作業で忙しい日々を送って
いますが、年に一回のご褒美を味わ
い、健康で働ける事に感謝し、明日
への活力となりました。



山郷館30周年をむかえて

身体障害者療護施設 **山郷館**

昨年の11月13日に、ホテルニュー
キャッスルにて「山郷館の30周年を
お祝いする会」を開催しました。当

日は、相馬鎬一弘前市長をはじめと
して、開設以来お世話になっている
ボランティアの方々、山友会及び法
人役員、山郷館・山郷館くろいし両
施設の利用者代表が出席して一緒に
お祝いを致しました。山郷館作成の
「なつかしの映像」では、開設当初
からの山郷館の様子や生活、活動、
行事の数々、また、平成8年10月に
初めての在宅サービス事業である山
郷館デイサービスセンターの開始や
障がい者地域生活支援の動きなど、
当時は振り返り感銘を深くしまし
た。

山郷館は、昭和54年4月に県内
2番目の身体障害者療護施設とし
て誕生しま
した。当時
は、真っ白
なキャンバ
スに利用者
の皆さんの
それぞれの
思いを「み
んなの願
い」として
描いていく
ことを目標
にして、一
所懸命に力
を合わせて

山郷館の30周年をお祝いする会



行ってきました。あれから30年、施
設サービスは、利用者のご家族の評
価に委ねられますが、障がい者の地
域生活支援を方針に現在にいたつて
います。「変えるべきもの、変えて
はならないもの」をしつかり見定め
ながら地域の山郷館として、存在
価値を持ち続けていきたいと思いま
す。

作業慰労会を楽しみに

知的障害者更生施設 **拓光園**

拓光園では、毎年『作業慰労会』
を男女各10名ずつのユニット単位で
行っています。これは、一年間無事
に作業できたことに感謝するとも
に、次年度もより良い作品作りに
励むことなど
を目的として
います。今年
度は、昨年の
10月27日に行
いました。高
齢者と障がい
の重い方のユ
ニットは、園
の中でカラオ
ケ大会やレク
リエーション
などを行い、



昼食は仕出し屋の豪華な弁当に舌鼓
を打ちました。それ以外の3つのユ
ニットは、それぞれ弘前市近郊の温
泉に外出し、のんびりと温泉に浸か
りながら入浴を楽しんだり、普段は
中々口にできないようなお膳を食べ
たり、買い物を楽しんで鋭気を養い
ました。

ところで、拓光園では現在廃油から
リサイクル石鹸を作る「石鹸班」の
他に、柏の葉百パーセントで腐葉土
を作る「腐葉土班」、「椎茸班」、「軽
作業班」、「歩行班」、「養魚班」の6
つの作業班が活動しています。そし
て、その活動を通してできた作品は、
弘前文化センターで毎年7月に開催
している「拓光園作品展」や9月の
カルチュアロード等に出品し、毎回
その時期を楽しみに待ってください
ています。そのようなお客様の
ニーズに応え喜んでもらえる作品が
作れるよう、また、今年も楽しい作
業慰労会を行えるように、これから
も皆で力を合わせながら作業に取り
組んでいきたいと思っています。
拓光園の作品に興味や関心をお持ち
の方は、ぜひ拓光園までお問い合わせ
してください。お待ちしております。

拓光園

TEL 0172-96-2331

